

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第 卷七第

行發日一月八年七正大

## 論說

我戰時利得稅ヲ論ズ(一)……………法學博士 小川郷太郎

遊民考(一)……………法學博士 瀧本誠一

相續稅批評ノ重點(三)……………法學博士 神戸正雄

さんちかりずむ概論(三)……………法學士 河田嗣郎

植民地統治ノ形式ニ就テ(二)……………法學士 山本美越乃

黃宗羲ノ政治經濟思想(二)……………文學士 小島祐馬

露國ニ於ケル新まゝるくす主義(二)……………文學士 米田庄太郎

## 時事問題

支那ノ金本位問題ニ就テ(一)……………法學博士 戸田海市

救濟事業ノ調査ニ就テ……………法學博士 神戸正雄

救濟調査會ニ就テ……………法學士 櫛田民藏

## 雜錄

飯島學士譯經濟學原論ヲ讀ム……………文學士 高田保馬

戰費調達問題(三)……………法學士 小島昌太郎

赤穂ノ鹽田(二)……………法學士 本庄榮治郎

通貨膨脹ト物價騰貴……………法學博士 神戸正雄

## 救濟調査會ニ就テ

櫛田民藏

我國近時ノ經濟社會ハ、歐洲戰爭開始以來、貿易ノ發展、正貨ノ激増、企業ノ勃興等、開國以來、未ダ曾ツテ見ザルノ盛況ヲ呈シツツアルガ、併シ其ノ一面ニ於テハ、新タニ人口ノ都市集中トナリ、物價殊ニ日用品ノ騰貴、中下層ノ生活難、同盟罷工、工場閉鎖等、貧困問題勞動問題ノ頻發セシコト、昨年四月以降、昨年末ニ於ケルガ如ク甚ダシキハ莫ク、而シテ或ハ慈善救濟ト云ヒ、或ハ職工慰安ト云ヒ、或ハ勞動爭議調査ト云ヒ、國ノ中央及ビ地方ニ於テ、救濟及ビ社會政策ノ施設ノ必要ノ提唱セラレツツアルコト、今日ノ如キハ、又未ダ曾ツテ見ザル所デアル。最近第四十議會ニ於テモ、政府ハ、其ノ豫算ノ編成ニ就テ、社會政策ヲ標榜シ、又タ議會ノ質問乃至建議ノ中、物價調節ニ關スル建議案、優良職工表彰ニ關スル建議案、同盟罷工ニ關スル質問、勞働保險ニ關スル建議案等、直接間接ニ社會政策ノ施設ヲ目的トスルモノ多キノミナラズ、最近ニ至リ、政府ハ、内務省地方局所管ノ下ニ、救濟調査會ナルモノヲ起シ、ソレノ委員ヲ任命シ、曩日既ニ第一回總會ヲ開キ、各種調査項目ヲ審議決定シタ。

今其ノ發表セラレシ所ニ依レバ、同調査會ノ決定調査項目ハ、(一)生活狀態改良事業(小賣市場、

住宅改良、小資金融、家庭職業、廉價宿泊及簡易食堂其他(一)窮民救濟事業(救貧制度、罹災救助制度其他)、(二)兒童保護事業(嬰兒保育、貧兒教育、兒童虐待防止、少年勞動制限、浮浪兒不長兒ノ處置、少年犯罪防止其他)、(三)救濟的衛生事業(救療機關ノ普及、災害救護、精神病白痴低能ノ救濟、肺結核ノ救濟其他)、(四)教化事業(興業物改良、盲啞及低能教育、出獄人保護、矯風事業、細民部落ノ改善其他)、(五)勞動保護事業(勞働保險、工場勞働ノ改善、補習教育、徒弟制度、婦人勞働、勞働組合及仲裁制度、純益分配制度、失業救濟及職業紹介、移民及出稼人ノ保護其他)、(六)小農保護事業(自作農ノ獎勵及ビ小作農ノ保護、農民家産制度、産業組合ノ普及改善其他)、(七)救濟事業(助成監督、救濟事業ノ指導監督并ニ調査ノ機關、救濟事業ノ獎勵助成方法、救濟事業ノ連絡及取締、公共團體公益團體宗教團體ノ活動其他)ノ八事業凡テ三十七問題ニシテ、コノ内、(一)小賣市場(二)小資金融(三)嬰兒保育(四)貧兒教育(五)兒童虐待防止(六)失業救濟及職業紹介(七)自作農ノ獎勵及ビ小作農ノ保護(八)救濟事業ノ助成監督ノ八項ハ最先調査事項トシテ擧ケラレテ居ル。

## 二

救濟事業ノ必要ハ、固ヨリ今日ニ始マレルコトデハナイガ、今日ノ社會ニ於テ、救濟ノ目的タル事實ハ個人的原因ノ外、別ニ社會的原因ニ基キ發生スルガ故ニ、コノ點ニ於テ特殊ノ研究ヲ必要トスル。而シテ今日ノ社會、特ニ我國ノ現在ニ於テ、之ガ調査研究ノ必要アルハ、去ル三日、本調査會委員招待會席上ニ於ケル内相ノ演說トシテ傳ヘラルル所ノ如シ。今姑ク其ノ個人的原因ニ基クモノヲ別ニシ、單ニ社會的原因ニ基クモノニ就テ考フルニ、一社會ニ於ケル救濟事業ノ存

在ハ、一面ニ於テハ、其レ自身其ノ社會制度其ノモノノ缺陷ヲ證明スルモノデ、一部世人ノ云フガ如ク、該事業ノ完備ヲ以テ文明ノ衿リト考フルハ必ズシモ當ヲ得ナイ。社會生活ノ理想ヨリ云ヘバ、初ヨリ救濟ノ必要無カラシムルガ如キ社會制度ヲ上トシ、既ニ其ノ之レアル場合ニ於テ、之ガ救濟ニ遺憾無カラシムルヲ中トシ、既ニコノ必要アルニ拘ラズ、之ガ救濟ノ施設無キヲ以テ下トスル。換言スレバ、吾人ガ社會的生活ノ樣式トシテノ社會制度ハ、ソレ自身防貧ノ目的ヲ具スルヲ以テ理想トスル。資本家ノ利己心ト單純ナル自由競争トヲ是認シ、一方ニ貧困ヲ作リツツ、他方ニ之ヲ救濟スル如キハ、假令其ノ救濟施設ニシテ完シトスルモ、吾人ガ社會生活ノ理想ヲ去ルコト甚ダ遠シト云ハザルヲ得ナイ。コノ意味ニ於テハ、諸外國ノ救濟制度モ、我國從來ノ救濟制度モ、亦々單ニ之レ無キニ勝ルト云フニ過ギズシテ、特ニ之レニ多大ノ價值ヲ置クコトヲ得ナイ。而シテ今回成立ノ救濟調査會ナルモノハ、從來ノ其レノ如ク、單ニ現行社會制度是認ノ下ニ慈善救濟の施設ヲ目的トシテ起リシモノデアルカ、又ハ一步ヲ進メテ、現在ノ社會制度其ノモノノ改造ヲ目的トシテ起リシモノデアルカ、ソモ一其ノ如何ナル趣旨ノ下ニ起サレタモノデアロウ乎。

先ツ去ル三日内相ノ演説ニハ、「近時世運ノ推移經濟狀態ノ變轉ニ伴ヒ社會政策上ノ各種問題ニツキ根本的調査ヲ遂ゲ」云々、「救濟事業ノ意義ニハ、固ト廣狹ノ二様アリ、而モ其ノ關係スル所ハ獨リ行政上ノ事項ノミナラズ、汎ク實生活ノ各局面ニ及ビ、或ハ資本ト勞動トノ調節ヲ完フ、或ハ職業ト生計トノ均衡ヲ得セシ、風紀ヲ保チ、衛生ヲ奨メ、都市農村ノ調和ヲ圖リ、救貧防

貧ノ施設ヲ整備シ、教育宗教ノ啓發利導ヲ大用スルガ如キ」云々、「調査會ハ是等ノ事項ヲ調査研究シ、以テ時代ノ進運ニ適當スベキ的確切ナル救濟事業ノ大本ヲ決定セントスルニアリ」云々ト言フヲ以テ見レバ、當局者ハ救濟ナル字義ヲ極メテ廣汎ナル且ツ特殊ノ意味ニ解釋シ、風紀問題、衛生問題、都鄙問題、救貧問題、資本對勞動問題、國民生計問題等社會上殆ンド一切ノ問題ニ關スル根本の大方針ヲ定メントスルニアルモノノ如ク、從ツテ單ニ之ノミニ依リテ判斷スレバ、本調査會ハ、現行社會制度ニ對スル根本の調査研究ヲ目的トスルモノノ如クデアル。併シ本調査會第一回總會ノ決議調査事項トシテ前ニ掲ゲタル所ヲ見ルニ、救貧事業アリ、防貧事業アリ、保健衛生事業アリ、而シテ小農保護問題アリ、勞動保護問題アリテ、問題ハ甚ダ多種多様デアルカ、イツレモ、現行經濟制度乃至社會制度其ノモノニ關スル根本の調査事項ト認メ得ベキモノ無ク、イツレモ、現行社會制度ノ下ニ於テ發生シタル各種ノ社會的事實ノ調査、并ニ現行社會制度是認ノ下ニ於ケル之ガ救濟及ビ貧困防止ノ方策ニ關スルモノデアル。廣ク現行ノ財產制度其ノモノノ研究ニ涉リ、又ハ廣ク經濟政策ノ社會化ヲ目的トスルガ如キ問題デハナイ。故ニ余ヲ以テ見レバ、本調査會ノ目的ガ社會政策上ノ根本方針云々ト稱セラルルニ拘ラズ、其ノ所謂根本方針ナルモノハ、常ニ現行社會制度其ノモノヲ是認スルコトノ前提ノ下ニ於テ一ノ根本方針デアル。即チ本調査會ノ所謂「救濟」ナル文字ハ、事實特定ナル意味ニ用キラレタノデ無ク、主トシテ個人乃至公共團體ノ普通所謂社會の施設ニ代用セラレタモノデアル。併シナガラ特別ノ説明無キ限り、「救濟」ナル文字ハ、何等カ恩惠の意味ヲ聯想セザルヲ得ナイモノダカラ、廣義ノ社會施設ヲ稱シテ救

濟事業ト呼ブハ當ヲ得ナイ。殊ニ思惠のニアラザル労働保護問題ノ如キヲ一括シテ救濟問題トナシ、而シテ本調査會ニ冠スルニ救濟ノ二字ヲ以テスルハ名實相副ハザルモノデアル。普通吾人ノ理解スル所ニ從ヘバ、救濟問題ハ一ノ社會ニ於テ、其ノ原因ノ如何ヲ問ハズ、一定數ノ生活ヲ維持シ得ザル人口ノ存在スルコトガ、社會上ノ問題ナラザルガ、労働問題ニアリテハ、寧ロ主トシテ労働者ガ勞力ノ賣買ノ相手方トシテ、常ニ社會上ノ利益ノ地位ニ置カルコトガ社會上ノ問題ナラザル。労働問題ハ勿論貧困問題ヲ伴ヒ、從ツテ救濟問題ノ對象トナルコトハアル。併シソハ寧ロ第二次の結果トモ見ルベク、之ヲ以テ該問題ノ本質ト考フルヲ得ナイ。前者ハ常ニ社會又ハ個人ノ道義同情ノ問題デアルガ、後者ハ主トシテ權利義務ノ問題ニシテ、兩者ハ理論上又タ實際上區別シ考フルヲ得ベク、且ツ區別スルヲ至當トスル。其他小賣市場問題ニセヨ、小資金融問題ニセヨ、小農保護問題ニセヨ、之ヲ救濟問題ニ包含セシムルハ、少ナクトモ吾人ノ常識ニ反スル。適切ニ云ハバ、本調査會ノ決定調査項目ハ、之ヲ一括シテ廣ク社會問題ト稱スベク、本調査會ハ之ヲ社會問題調査會ト稱スベキデアロウ。コハ一見名稱ノ問題ノ如キモ、其ノ實問題ノ根本思想ニ關スル所デアル。

次ニ之ト關聯シテ問題トナルハ、本調査會ノ所屬ニ就テデアル。決定調査項目中ニハ、事ノ性質上、他省又ハ既存特別調査機關ノ所管トスベキモノ多クアル。例ヘバ、第一ノ生活狀態改良事業、第六ノ労働保護事業ノ殆ンド全部、第七ノ小農保護事業ノ全部ハ農商務省ニ、第四救濟的衛生事業ノ全部ハ保健調査會ニ、第三ノ兒童保護事業ノ中少年労働制限ヲ農商務省ニ、嬰兒保育ハ

保健調査會ニ、貧兒教育ハ文部省ニ、少年犯罪防止ハ司法省ニ、而シテ第五ノ教化事業ノ一半ハ文部省ニ、第六ノ中移住民及ビ出稼人ノ保護ハ外務省ノ所管ニ屬セシメ、第二ノ窮民救濟事業ト第八ノ救濟成事業監督ト、外ニ第一第三第五ノ中農商司法文部ノ三省ト關連スル一二ノ事項ヲ內務省ノ既設機關ノ調査ニ任セシムル時ハ、殘ル所ノ問題ハ、第六勞働保護事業中、勞働組合及仲裁制度ノ一項タケトナル。即チコレタケガ特別調査ヲ必要トスルコトニナル。本調査會ノ調査委員ハ可ナリ各方面ノ人物ヲ網羅シテ居ルカラ、調査ノ重複、問題ノ衝突ノ如キハ、比較的容易ニ避ケ得ルカモ知レナイガ、カク各省ノ所管ニ涉リ多方面ノ問題ヲ取扱フ以上ハ、寧ロ之ヲ內閣直屬トスルヲ至當トスベキデハナカラウ乎。

最後ニ問題トナルハ、所謂最先調査事項ニ關シテアル。調査會ハ總調査項目中八問題ヲ擇ビ最先調査事項ト定メタコトハ既ニ述ベタ所デアルガ、調査會ハ如何ナル標準ノ下ニ最先ト然ラザルトヲ區別シタデアロウ乎。思フニ、コハ本會ノ趣旨ト現在ノ實情トニ依リテ判斷スル外ハアルマイ。若シ單ニ現在ノ必要ニ重キヲ置クナラバ、所謂最先調査項目ノ殆ンド全部ハ、既設ノ調査機關ニ一任スルヲ以テ目的ニ適スト云フベク、之レガタメニ新タニ調査機關ヲ設クル如キハ、寧ロ迂遠ノ策デアロウ。例ヘバ、物價殊ニ日用品價格ノ騰貴ニ基ク、中下層階級ノ生活難ハ、刻下ノ大問題デアルカラ、內務省モ亦タ大藏省ノ通貨政策、農商務省ノ物價調節策ト相俟ツテ、特ニ警察事項ノ一トシテ小賣商業ノ取締ノタメニ、小賣市場其他類似ノ問題ヲ調査スルノ必要ガアルデアロウガ、併シ、コノ問題ハ公設市場又ハ購買組合ノ問題ト表裏ノ關係ニアルモノデアルカラ、

問題ノ性質上之ヲ調査ハ農商務省ノ既成調査機關ニ一任スルヲ便利トスル。其他小資金融、失業救済、職業紹介、小農保護等ノ問題モ、向ジク農商務省ノ調査ニ、貧兒教育ヲ文部省ニ、嬰兒保育ハ内務省ノ既成調査機關タル保健調査會ニ、而シテ、殘ル所ノ兒童虐待防止ト救済事業助成監督ノ二問題ハ、既存ノ内務省救済課ノ調査ニ任ズルコトガ出來ル。從ツテコノ點ニ就テ特ニ調査機關ヲ設クルノ必要ハアルマイ。故ニ若シ特ニ本調査機關ヲ設クルノ必要アリトセバ、ソハ茲ニ調査會ガ最先事項トシテ選擇シタ以外ノ問題ニシテ、之ガ調査ハ刻下ノ急務ナルト共ニ、既設ノ機關ヲ以テシテハ調査ニ困難ヲ感ズルモノデナケレバナラヌ。

余ノ見ル所ヲ以テスレバ、ソハ從來我國多數ノ社會政策論者ニ依リテ開却セラレツツアル彼ノ穢多問題、及ビ歴代ノ内閣ニ依リテ誤ツテ危險視セラレタル勞働組合ノ問題デアル。穢多問題ハ我國維新ノ政治的革命ノ殘骸デアリ、勞働組合問題ハ我國現時ノ社會問題ノ中樞ト云ツテヨイ。本調査會決議事項第五ノ教化事業中ニハ細民部落ノ改善テウ一問題アリ。コハ或ハ廣ク穢多問題ヲ含ムモノデアロウガ、調査會ハ之ヲ最先調査事項ノ一ニ加ヘナイ。而シテ我國ノ勞働問題ハ勞働者ノ發達西洋諸國ノ如クナラズ、從ツテ之ヲ西洋諸國ノ其レト同一律ニ取扱フヘ、國家ノ政策上必ズシモ當ヲ得ナイガ、併シ最近ノ結果、殊ニ昨年四月以降頻々トシテ起レル同盟罷工ノ結果ニ徴スレバ、罷工ハ單純素朴ナル感情問題ニ基クモノ少ナクシテ、却ツテ合理的ナル賃銀値上ノ要求ニ基ク。是レ問題ガ我國ニ於テモ、感情問題ヨリ經濟問題ニ移リタルモノ、寧ロ一段ノ進況ト認ムルコトガ出來ル。該問題ハ我國ニ於テハ最新ノ問題デモアリ、又タ彼ノ治安警察法第十七

條ト密接ノ關係アルガ故ニ、特ニ之ヲ内務行政上ノ一事項トシテ、新タニ調査研究スルノ價値アルノミナラズ、本調査會ガ特ニ之ガ研究調査ニ從事スルコトハ、内相ノ演說ニ所謂「資本ト労働トノ調節ヲ完フシ云々」ト云ヒ、又「救済ノ本旨ハ徒ラニ給スルニアラズシテ、寧ロ自主自立ノ精神ヲ興起シ云々」ト云ヘル趣旨ニモ適フモノト云ハネハナラヌ。然ルニコノ主要題目ハ穢多問題ト同ジク最先調査事項ヨリ除外セラレ、却ツテ既存機關ヲ以テ調査シ得ベキモノヲ最先調査事項トシタルハ余ノ不審ニ堪エザル所デアアル。

### 三

之ヲ要スルニ、本調査會ハ、第一ニ其ノ名稱ノ上ニ、第二ニ其ノ所屬ノ上ニ、第三ニ問題ノ緩急ヲ決スル上ニ於テ疑義ガアル。而シテ余ノ希望ハ、第一ノ點ニ就テハ、救済調査會ナル名稱ヲ廢シテ社會問題調査會トスルコト、第二ノ點ニ於テハ、之ヲ内務省ノ一局ニ所屬セシメズシテ内閣ノ直屬トスルコト、第三ノ點ニ於テハ、穢多問題及ビ労働組合問題ヲ最先調査事項ノ一トスルコトデアアル。(七、五、一〇)